

他者からの要求諾否に関わる要因の検討

小谷由佳¹# ○今田里佳² 島田英昭²
(1 鳥取県精神保健福祉センター 2 信州大学)

1. 目的

意思決定には様々なものがあるが、人の要求に応じるのか断るのかを決定することもその1つである。要求の拒否は主張行動の1つであり、アメリカでは、薬物防止プログラムで薬物を断る拒否スキルのトレーニングが行われてきている。しかし、普段の生活で人からされる要求は薬物のような違法なものではなく、多くが「～を手伝って?」といった日常的な要求だろう。そして、このような要求の意思決定に難しさを感じる人が少なくない。それは、要求に対する意思決定時に複数のことが考慮されるからではないだろうか。Zeelenberg, Battie, van der Pligt, & Vries (1996) は、選択行動に影響を与える要因として後悔の感情を用い、後悔が小さい選択肢を選ぶ可能性を示し、Elsbach (1999) は、ポジティブな心理状態の時よりも、ネガティブな心理状態の時の方がより慎重に意思決定がなされることを示した。

本研究では、日常的な要求に対する意思決定時にどのようなことが考慮されるのかを検討し、さらに、意思決定に影響を与えると考えられる関連要因との関係を検討することで、日常的な要求の意思決定がどのような要因に影響を受けているのかを検討する。

2. 方法

2.1 予備調査 ①予備調査要求項目の作成

日常生活でされる要求を整理するために、要求の種類を挙げ、それぞれについて要求項目を作成した。要求の種類は、9つ設け(貸して、ください、～して、手伝って、代わって、取っておいて、買って、～しよう、見せて)であった。

②要求項目の評価と項目の選出

最高に断りやすいものを0、最高に断りにくいものを100として、どの程度断りにくいのか、線分を縦の線で区切って評定してもらった。評価者は大学生42名、極端や、いびつな分布の項目を除き、内容に偏りが無いよう10項目を選出した。

2.2 本調査 ①本調査用質問紙

予備調査によって選出した10の要求項目それ

ぞれについて、要因ごとに考慮項目(ある要求をされた時にその項目をどの程度考慮して決定するのかを問う項目)を作成した。また実際の意思決定場面での意思決定について検討するため、質問紙上に意思決定場面を設定した。その他性格に関する質問及び心理的状态に関する質問も行った。

②本調査の実施

被験者は、信州大学の学生201名と専門学校生50名の計251名(男性88名、女性160名、不明3名)であった。調査は、授業時間中に実施した。

3. 結果

調査者が設定した10の要求項目の意思決定では、考慮される要因のパターンが類似する要求項目があったため、それらをグループごとにまとめた。各グループと考慮要因の関連を図1に示す。

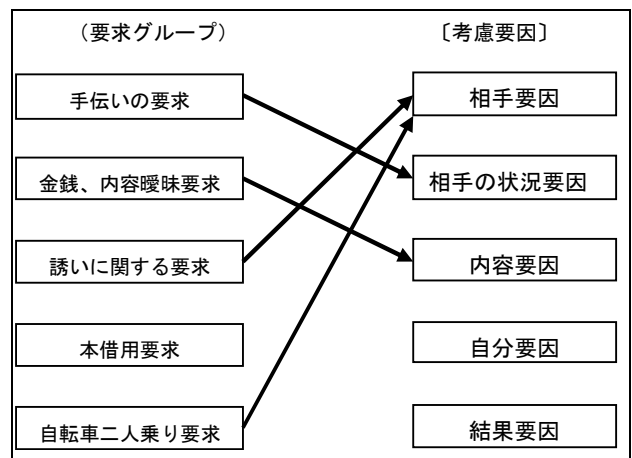


図1 各要求グループにおける考慮要因

自分要因、結果要因が決め手となるグループはなく、特に、結果要因は全ての要求項目において最も考慮されない要因であった。また、実際の意思決定との関連がみられなかった。特に日常的な要求の意思決定は結果要因の影響は受けない。

4. 考察

大学生にとって日常的な要求では、負担の軽い要求が多いため、自分自身の事や結果を考慮した意思決定が難しくなる。つまり、要求されるといふことや、又は他のことが犠牲になっても断れなくなる。日常的な要求の意思決定で困らないために、結果を意識した決定をする必要がある。